

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

久留米市における中学校出前サロン事業

～思春期の生（性）を育む「いのちの教育」の取り組みについて～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

久留米市保健所健康推進課母子保健チーム

代表者：澁田 雄飛

勤務先：久留米市役所

所 属：健康福祉部保健所健康推進課

所在地：〒830-0022

福岡県久留米市城南町15-5久留米商工会館4階

TEL：0942-30-9731

FAX：0942-30-9833

E-Mail：ho-kenko@city.kurume.fukuoka.jp



◇活動の背景

久留米市は、安全に安心して暮らせるまちづくりを市民と協働して推進していくために、「セーフコミュニティ」に取り組むことを平成23年7月に宣言し、セーフコミュニティ推進協議会において重点取り組み分野（6分野）、重点取り組み項目（10項目）を設定した。

重点取り組み項目の一つである「児童虐待の防止」に関しては、地域や家庭からの孤立や子育てに不安を感じている保護者が多いこと等の課題を踏まえ、児童虐待防止対策委員会を中心として①乳幼児家庭訪問事業の地域連携②中学校への出前サロン事業③子どもによるオレンジリボン作成、を主要な事業として取り組んでいる。

以下、「中学校への出前サロン事業」に関して平成25年度、平成26年度に取り組んだ内容を報告する。

なお、久留米市は平成25年12月21日にセーフコミュニティの国際認証を受け、国内で9番目、九州では初の国際認証都市となった。

活動成果報告書

◇活動方針

少子化・地域コミュニティの希薄化等の影響を受け、子どもの頃から赤ちゃんと触れ合う機会が少なくなっている。そこで、子育てしやすい地域を目指すために、民生委員・児童委員、地域のボランティア等によって構成された「すくすく子育て委員会」が、コミュニティセンター等で行っている子育てサロン事業を中学校で開催し、以下の2項目を目標として、中学生と子育て中の親子、地域の支援者との交流体験授業を実施した。

- ・ 生と性に関する講話とふれあい体験学習を通して、命の大切さや相手を思いやる気持ちを育む
- ・ 子どもの成長を見守る親の喜び・責任等を実感することにより、自分自身の成長を振り返り、親への感謝の気持ちや思いやりの心を持つことの大切さ、男女ともに協力し家庭を築いていくことの意義を学ぶ

◇活動内容

○実施内容（平成25年度）

実施日：平成26年2月13日

対象：A中学校3年生の1クラス（約30名）

対象中学校は「子ども見守り地域ネットワーク（※）」のモデル地区にあるA中学校を指定

（※子育て支援・児童虐待防止に向けて、より効果的な取り組みを行うための校区を単位とした関係団体のネットワーク）

内容：第一部（30分）講話：保健師からの話「いのちと性について」

第二部（20分）体験談：母からの話「いのちの大切さ、子育てについて」

○実施内容（平成26年度）

実施日：平成26年6月12日・13日

対象：A中学校3年生全5クラス（約150名）

内容：第一部（50分）

講話：テーマ「いのちと性について」

- ・ 二次性徴や性感染症について
- ・ 思春期での男女交際において大切なコミュニケーション
- ・ いのちの誕生とその尊さ、親になるということ

第二部（50分）

体験学習（①赤ちゃんふれあい体験②妊婦体験③沐浴体験）○実施に向けた関係機関の関わり

①セーフコミュニティ児童虐待対策委員会事務局にて、A中学校と日程調整を行った。

②事務局、児童委員・民生委員及び子育て支援部局等を中心として、子育てサロンに参加している親子に対し、中学校出前サロン事業への参加の呼びかけを行った。

③保健師は、中学生の習熟度にあわせた性教育講話を実施できるよう事前に学校と打合せを行った。

ビデオ(エコー)を見てみよう

妊娠22週と37週のときの赤ちゃん
お母さんのおなかの中で大きく
育っている様子がわかりますね。



思春期の男女交際で大事なこと！

男の子も女の子も
相手に対する優しさを

男の子は 気持ちを抑える勇氣
女の子は はっきりと断る勇氣

【講話スライドの一部】

◇取り組みにおける課題と成果について

平成25年度については、①学校教育とのカリキュラム調整や講話内容の打合せ等に時間を要したこと、②開催時期が2月であったため、感染症等の影響でふれあい体験に参加する親子が少なかったこと③1時限授業（50分）の中で講話とふれあい体験を実施するスケジュールでは、生徒が本事業の目標を習熟するためには時間が短

活動成果報告書

すぎたこと、といった課題が挙げられた。

平成 26 年度では上記①、②、③の課題を踏まえ、事前に学校とカリキュラム調整を行い、開催時期を 6 月に設定し、学習形態は学年全体の一斉教育ではなくクラス単位での学習とし、時間数も 2 時限確保した。

その結果、親子が参加しやすい時期でもあったことから、親子の参加が多く、生徒と親子が触れ合う機会を十分確保することができた。子どもと触れ合っているときの生徒は、緊張した様子ではあったが、「普段の学校生活では見せないほど表情豊かだった」と教職員が話されたように、こころとこころが触れ合っているような印象であった。保健師講話では、「いのちの尊さ」を生徒が実感できるよう、話だけでなく胎児のエコー動画や写真等を用いて視覚・聴覚的なアプローチにより、習熟度を高めることができるようなプログラム構成とした。

また、親子のアンケート結果からは「中学生と触れ合う我が子を見て、より愛おしく感じた」「自分が育った校区でふれあい体験ができてよかった」、「中学生と赤ちゃんが触れ合う機会があまりないので、今後もこの取り組みが広がってほしい」など好意的な回答が多く、生徒だけでなく、親にとっても、いのちの大切さや地域でのつながりを改めて考える機会となった。さらに、民生委員・児童委員等当日従事した関係者からも「行政と学校と地域がうまくタイアップして取り組めた事業だった。今後も地域に広がってほしい」などの意見が寄せられた。

【写真：体験学習の様子】



◇今後の計画

(1) 思春期保健対策の推進

妊娠の低年齢化や、10代での人工妊娠中絶数が増加傾向にあり、母子を取り巻く環境は複雑化・多様化し、母子保健と学校教育の連携はますます重要性を増している。このような課題を解決するためには、思春期からのいのちと性に関する取り組みが不可欠であり、今後も学校長や養護教諭、教育委員会等関係機関との連携及び意見交換を行いながら、取り組みを推進していきたい。

(2) 関係機関と協働した取り組みの推進

中学校出前サロン事業は、生徒に対するいのちの教育の場の提供にとどまらず、民生委員や児童委員等の地域の支援者や子育て支援機関・団体を巻き込んだ地域づくりである。今回、民生委員・児童委員、児童センターの職員等、地域づくりの担い手である支援者にも関わってもらったことで、中学校出前サロン事業に初めて参加した親子の不安を軽減することができ、また生徒に対しては、親子の関わり方や子育て支援に関する地域での取り組み等の話をしてもらうなど、行政と地域がお互いを補完し協働して取り組むことができた。平成 26 年度はモデル校区でのみの取り組みであったが、今後は取り組み校区の拡大を図り、自分が育ったまちで子育てしやすい地域づくりを実現していくため、教育機関や民生委員・児童委員及び地域団体等と更なる協働を図り、効果的な取り組みを展開していきたい。